

NOKA I D A I NOW

近畿職業能力開発大学校の声をお届けします

学生が1等・2等・上位作品に選ばれました！

応用課程 建築施工システム技術科2年生の6名が、第6回建築設計競技会（主催（一社）実践教育訓練学会）で1等、2等、上位作品に選ばれました。その受賞報告を2023年8月21日に校内応接室にて行いました。



北條校長、村岡先生（指導教員）と建築施工システム技術科2年生6名の受賞学生達

第6回実践教育訓練学会・建築設計競技のテーマは「地域に根差す家」に設定され、日本全国の一般大学、職業能力開発関係施設で学ぶ学生・受講生、高校生よりエントリーが55件あり、1等1作品、2等7作品、上位作品7作品選出の中、当校の3作品が見事選ばれました。

<受賞者>

1等 実践教育建築デザイン賞（作品名 路地裏の表暮らし）菊岡さん、金城さん

2等 インフォマティクス賞（作品名 縁結びの種まき）伊藤さん、玉城さん、高杉さん

上位作品（作品名 わたしと生きる家） 遠藤さん

近能大は学生の資格取得・さまざまな活動を応援します！

建築施工システム技術科 学科説明は[コチラ](#)

本物を建てる!基礎から応用まで、充実した実験・実習で建築技術者をめざす!

1等 実践教育建築デザイン賞

作品名 路地裏の表暮らし

季節ごとに
住む場所を
変えるシステム



(左：菊岡さん、右：金城さん)



菊岡さん：路地裏なら密にならずにコミュニケーションがとれるのではないかと考えました。
競技会はパネルでしか表現できないので、パネルには力を入れています。
文字を減らして伝わりやすいように工夫しています。



金城さん：季節ごとに過ごしやすい住居を設計し、街を巻き込むアイデアを出しました。ポツにしたアイデアがあり、そこから完成までの道のりが大変でした。



2等 インフォマティクス賞

作品名 縁結びの種まき

土間を通じて、
気軽に交流が
できる家。



(左：高杉さん、中：玉城さん、右：伊藤さん)



伊藤さん：靴を脱がずに近所の人と交流できる土間がある家を考えました。特に、小学校の近くに建てて、子供を中心に輪が広がる家を設計しました。



玉城さん：私は写真部であった経験を活かし、パネルの写真にはこだわって制作しました。スマホですが、光源等を工夫して、厳選した写真をコンテストに出しました。色合いや雰囲気はとても大事です。



高杉さん：イラストを担当しました。アイデアを固める時には3人共、とても苦労しています。2等をいただけたのは、アイデアの部分の評価してもらえたのだと思います。

上位作品

作品名 わたしと生きる家

実家を「わたしと生きる家」のように
にフォームしたいという夢があります。

(遠藤さん談)



遠藤さん



遠藤さん：都会に行った人が、地元に戻ってくるときに
懐かしい気持ちになる家を考えました。

実際に自分の昔住んでいた家を想定しています。
すんだ人に「懐かしい気持ち」を持ってもらうために、
新築ではなく、リフォームするということ
にこだわっています。

リフォームは制約があるため難易度がありますが、
自分の思い出があるので楽しい気持ちで課題に取り組みました。



建築施工システム技術科

村岡ゼミ

学課説明は[コチラ](#)

本物を建てる!基礎から応用まで、
充実した実験・実習で建築技術者をめざす!

